

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

<地域の現状>

・程よい距離感を大切し、プライバシーの尊重を大切にする地域である。
 ・これまで地域のつながりを持たなかった人やつながりが浅い方が高齢となり独居、健康課題、ADL低下などの不安を持った時、その不安や課題を抱え込んでしまうことがある。そんな中、高齢化や家族力の低下から高齢独居や高齢夫婦など、地域のつながりが必要な方が年々増加している。
 ・住民の健康意識が高い一方で、公共機関を利用して地域外でつながりづくりをしていた方が75歳を過ぎたところから遠方への外出が困難となり、閉じこもりがちになる傾向がある。
 ★コロナの影響で、つながりの希薄化・フレイルの進行・不安感増強などの課題が顕在化してきている。

<今後の方向性>

●地域住民に「地域のつながり」を浸透させる
 ●必要な人に対してはステップ②③のつながり(下記参照)に発展できる支援を行う。
 上記の地域を目指すために、つながりサポーターを増やしていく。
 *「つながりサポーター」とは「あなたの身近な地域でプラスワン」を理解・発信・実行する方であり、地域のつながりづくりをケアプラザと共に推進してくださる方です。

地域のつながりステップ

- ステップ①雑談できる関係・グループ活動で仲間と活動
- ステップ②お互いの連絡先を知っていて、困った時には連絡を取り合う
- ステップ③支え合いができる。例えば具合が悪い時に買い物したりゴミ出しの手伝いをするなど

●取り組みのテーマ

「あなたの身近な地域でプラスワン」

例)・身近な地域で活動しているグループに参加する(参加するグループを1つ増やす)

- ・身近な地域で相談できる人を1人増やす
- ・自分の参加している活動グループに1人仲間を増やす
- ・なじみの場所・お店を作る(1つ増やす)
- ・地域に貢献できることを始める(1つ増やす)

★令和3年度の方向性としてはコロナ禍で希薄化したつながりの再構築を目指していく

今年度の重点的な取り組み

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	■	【地域のつながり状況把握】コロナ禍にて情報収集が困難になっている現状を踏まえつつ、改めて地域の活動状況や情報を確認、整理する。そして、それぞれの専門職が情報を共有し、発信していくことで地域のつながりを再構築していく。
<input type="checkbox"/>	■	【地域のつながりステップ①への取り組み】1.「つながり」の必要性について2.「つながり」は健康につながるというメリット3.「ケアプラザとは「地域のつながりステーションである」この3点を地域住民にケアプラザ事業や地域の活動に出向いて周知していく。
■	<input type="checkbox"/>	【地域のつながりステップ②への取り組み】「介護者の集い」「ハマトレ」「つながりサロン」そして、コロナ禍にて行先が少なくなっている母親と子供たちを対象とした事業を展開することで必要な方々同志がつながりの輪を深めたり、再構築することができるように支援する。その中から「つながりサポーター」を増やしていく。
<input type="checkbox"/>	■	【地域のつながりステップ③への取り組み】エリア会議の開催を通して地域レベルでの地域のつながり力アップを目指します。個別ケア会議では、個々に合わせたきめ細やかな具体的なつながり支援を行います。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

区からのコメント